

<「知るっば！久留米」 令和3年12月16日(木) 12:30~放送分>

みみて楽しむ久留米の昔話 ～第3回～ 「名剣大明神」

<ゲスト：久留米シティプラザ事業制作課 竹下久美子さん>

《音源：みみて楽しむ久留米のむかし話2》

『名剣大明神(みょうけんだいみょうじん)』

今から800年ほど前、日本では、平氏の大将・平清盛が強い力を持ち、京都に住んで国を治めていました。

清盛は、自分の娘を天皇と結婚させ、生まれた子どもを2歳で天皇にしてしまいました。その天皇が、安徳天皇です。

清盛は、天皇のおじいさんという立場を利用し、勝手なことをしていました。

そんな中、源氏の大将・源頼朝の軍が、平氏を攻めてきました。

平氏の人々は8歳になった安徳天皇を連れて、京都から四国、九州まで逃げ回りましたが、瀬戸内海の壇ノ浦での戦いに敗れ、ついに滅びてしまいました。

そのとき、安徳天皇のおばあさんである二位の尼は、

8歳の安徳天皇と代々受け継いできた天皇の印の剣を抱きかかえて、海の中に飛び込みました。

源氏の軍は、すぐに安徳天皇や天皇の剣を探しましたが、ついに見つけることができませんでした。

そのためでしょうか、安徳天皇が剣を持って逃げ延びたという話が各地で伝えられています。

そう、この久留米にも。

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば久留米」ナビゲーターの坂本豊信です！

今月は、久留米シティプラザが無料動画配信サイト(YouTube)で配信中の

『みみて楽しむ久留米の昔話』をテーマにお送りしています。ゲストはこの方です。

ゲスト：竹下さん(以下「竹下」)

こんにちは。久留米シティプラザ事業制作課の竹下久美子です。

よろしくお願いします。

坂本 第3回目は『名剣大明神(みょうけんだいみょうじん)』をテーマでお送りします。

今回は、安徳天皇がすごい剣を持って久留米に逃げ延びたというお話ですね。

竹下 天皇家に代々伝わる三種の神器のひとつ、草薙(くさなぎ)の剣のことです。

鏡、勾玉とともに皇位継承の証とされていて、今の天皇陛下のご即位の際も、

厳重に包まれた剣の箱を侍従の方が運んでいらっしゃいました。

坂本 その草薙の剣が、久留米に伝わっているかもしれないということですね？(笑)

竹下 この昔話によると、久留米に逃げ延びた安徳天皇は、16歳のときに地元の娘さんと結婚して、今の荒木町に移り住んだ後、病のため28歳でお亡くなりになったとか。剣は、安徳天皇の住まい跡に埋めて、その上に名剣大明神と文字を彫った石碑を建てたそうです。

坂本 なかなかすごいお話ですよ。このラブロマンスに絡んで椿のお花の話があって、それが水天宮の社紋になったという話もあるんです。その石碑は、今でも荒木にあるのですか？

竹下 白鳥神社の境内にひっそりとありました。御祭神は、草薙の剣の持ち主でもあったヤマトタケルノミコトでした。加えて、境内の案内板に書かれていた区長さんのお名前が“安徳さん”だったので、一緒に行ったメンバーですごく盛り上がりました。(笑)以前、安徳部のイベントを開催したときに参加してくれた中学生が、「僕の家近くに草薙の剣が埋まっているよ」と白鳥神社のことを教えてくれたんですね。地元でどんなふう伝わっているのか、もっと聞いておけばよかったと今は悔やんでいます。

坂本 私の高校時代の友人にも安徳君がいて、もしかしたらこのあたりの出身かもしれませんね。歴史上では8歳で入水してお亡くなりになったとされる安徳天皇なんですが、久留米で28歳まで生き延びていたというのも驚きですよ。

竹下 安徳天皇の墓所は、宮内庁が管理する山口県下関市の天皇陵のほか、宮内庁指定の陵墓参考地が複数あります。特に、平家の勢力が強かった四国や九州の各地に生存説が残っていて、実は久留米市の日輪寺も安徳天皇の菩提寺だと伝わっています。

坂本 諸説あって、歴史ミステリーというか歴史ロマンがあちこちに点在しているんですね。

竹下 昔話もそうですが、先週お話した平知盛や源義経、幼くして命を落としてしまった安徳天皇など、悲劇的な最期を迎えた有名人の「もし、生きていたら」という空想の物語は、人形浄瑠璃や歌舞伎の演目でも昔から人気が高かったようです。

坂本 謎が多い分、みなさんの想像が膨らむのでしょうか。久留米シティプラザでも安徳天皇が生きていたら・・・という内容の作品が上演されたんですよね？

竹下 はい。7月に上演された木ノ下歌舞伎「義経千本桜 渡海屋 大物浦(よしつねせんぼんざくら とかいや だいもつのうら)」ですね。江戸時代に作られた三大名作歌舞伎のひとつです。

作品の舞台は久留米ではなく、いまの兵庫県尼崎市なのですが、
平知盛と安徳天皇が生き延びていたら、そして源義経に復讐を企てていたら・・・というお話です。
舞台上の知盛や安徳天皇の姿を見たときは、
「二人とも、生きてて良かったね」と涙が出そうになりました。(笑)

坂本 研究や公演の準備を進めるうちに、身内みたいな情が湧いてきたんじゃないですか？

竹下 そうなんです。私も客席で観ていたのですが、完全に平家の一員になって涙していました。(笑)
平知盛と源義経、史実では2人とも悲劇的な最期をむかえています、
きっと死に至るまでにいろいろな選択肢があったはずなんです。ね。
2人はそれぞれに背負うものがあって、“生きのこる”という選択ができなかったのですが、
人はなぜ戦うのか、もっと相手と向き合って、話すことで解決していくことはできないのか。
争いが絶えることのない現代にも通じる、大きなテーマだと思います。
木ノ下歌舞伎は、現代風にアレンジした歌舞伎を演じる団体なのですが、
反戦だけでなく、コロナ禍による格差や分断など、いろいろなメッセージが込められた作品でした。
ぜひ、また久留米で上演していただきたいと思っています。

坂本 人はなぜ戦うのか。向き合って話し合って解決していくことはできないのか。
宇宙戦艦ヤマトのラストのような話ですが。(笑)
また、舞台があればぜひ鑑賞したいと思います。
竹下さん、興味深いお話を今回もありがとうございました。
他にもいろいろな昔話が、久留米シティプラザのホームページや YouTube サイトにありますので、
ぜひ聞いてみてください。
次回は、大善寺の『朝日寺(ちょうにちじ)』をテーマにお聞きします。
お楽しみに。